

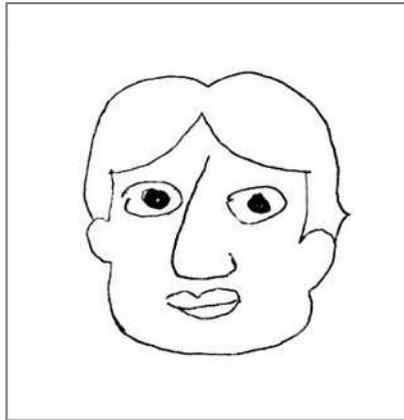
景観まちづくり

価値共有によるコミュニティ再生の試み

令和5年7月26日 地域コミュニティ活性化推進審議会

NPO法人 京都景観フォーラム 森川 宏剛

自己紹介



森川 宏剛 (Morikawa Hiroyoshi)

NPO法人京都景観フォーラム 専務理事

京都景観エリアマネージャー

京都市文化財マネージャー(建造物)

京都市景観・まちづくりセンター登録 まちづくり専門家

民泊地域支援アドバイザー

京都市建築協定連絡協議会事務局

京都市市民参加推進フォーラム委員

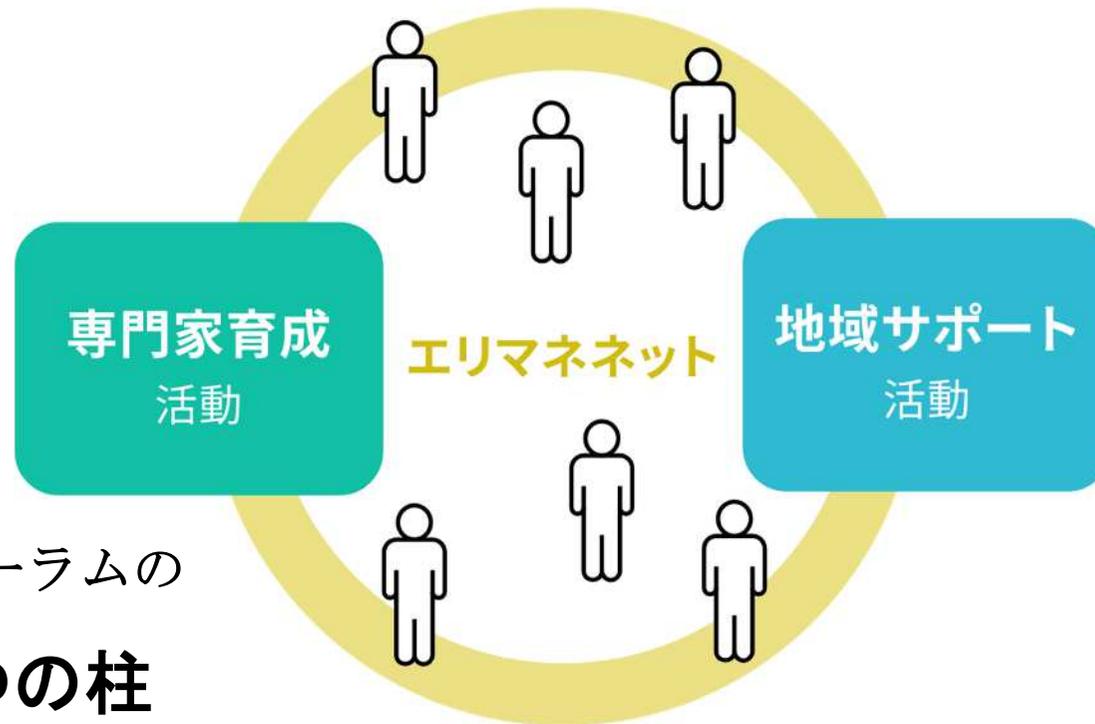
都市計画系
コンサルタント

京都市景観・
まちづくりセンター

NPO法人
京都景観フォーラム

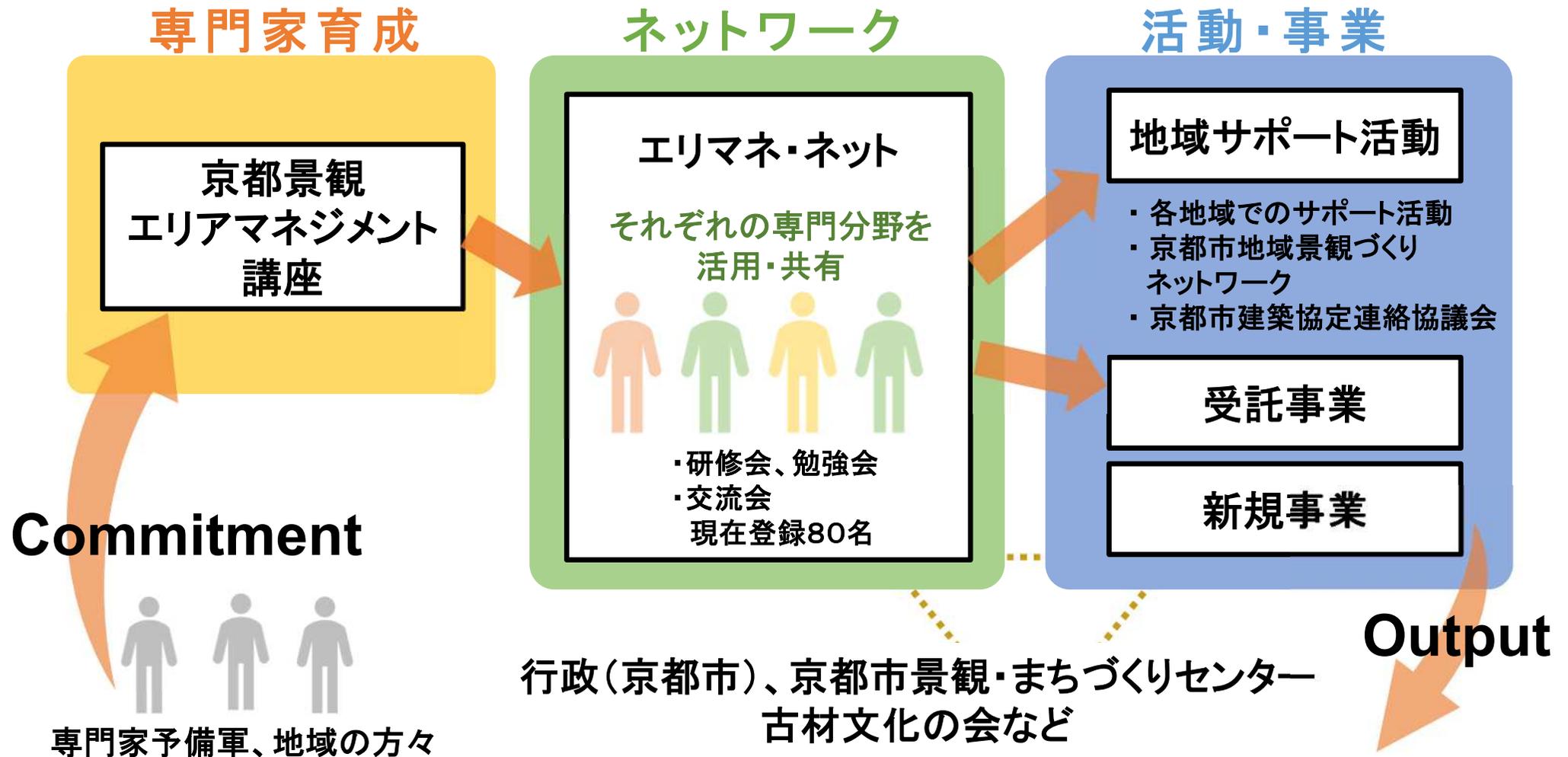
1968年奈良県生まれ(桜で有名な吉野山のふもとでとれました)。京都大学工学部化学工学科卒。卒業後、都市計画系のコンサルタント会社に入社。京都市の都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、都市計画基礎調査、防災都市づくり計画などの策定支援を手掛ける。2005年公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターに就職、まちづくりコーディネーターとして地域のまちづくり活動の支援を担当。洛西ニュータウン西竹の里の地区計画、修徳・先斗町・桂坂の地域景観づくり協議会立ち上げ支援等にコーディネーターとして関わる。2014年NPO法人京都景観フォーラム専務理事に就任。景観まちづくりを支援する京都景観エリアマネージャーの養成、地域のネットワークの事務局、嵐山、祇園新橋、桂坂、柘野、藤城等を支援。共著「まちづくりコーディネーター」(2009年 学芸出版社)共著「京都から考える都市文化政策とまちづくり」(2019年ミネルヴァ書房)

私たちのまちを、私たちが育てる。



京都景観フォーラムの
活動の2つの柱

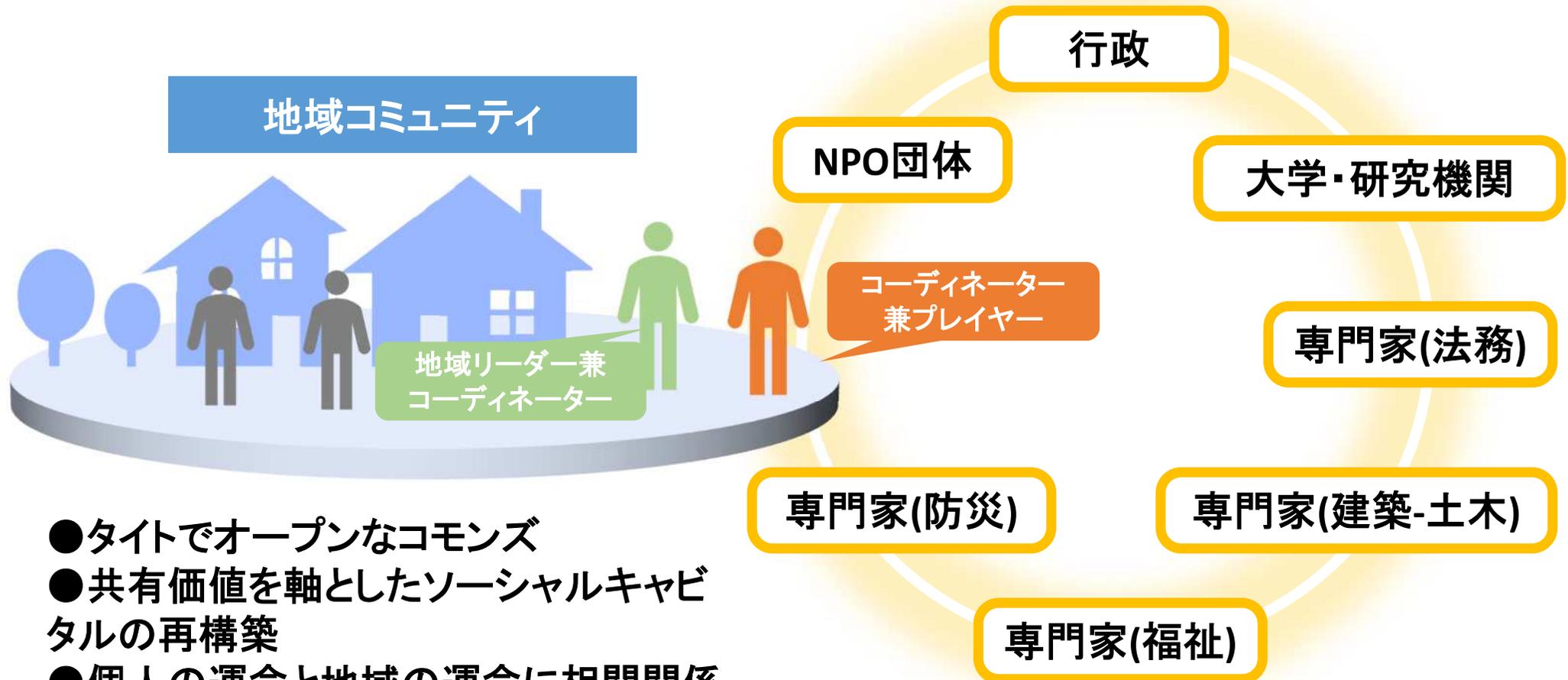
京都景観フォーラムは、さまざまな専門分野の人材を
景観まちづくりに携わる専門家として育て、
そのネットワークで地域が主体となった景観まちづくりをサポートしています。



- ・さまざまな人が参加でき、専門性を活かして景観まちづくりに関われるしくみづくり
- ・育成したエリマネや他団体と形成するネットワークで、活動がより広く、より豊かに

地域外の団体や専門家の力を借りて
地域のマネジメントを進める。

地域のビジョン実現を
サポートするネットワーク



- タイトでオープンなコモンズ
- 共有価値を軸としたソーシャルキャピタルの再構築
- 個人の運命と地域の運命に相関関係がある(と思っている)人が担い手となる

景観フォーラムが支援する地域

区分	地区数	備考
京都市地域景観づくり協議会 制度の活用地区	14地区 +検討中	■ 14地区 修徳学区、先斗町、西之町、一念坂二寧坂、 桂坂、姉小路、仁和寺門前、三条通、明倫 祇園新橋、嵐山、笹屋町一丁目、祇園町南側、 膏薬の逗子 ■ 検討中 小倉山町、他
京都市建築協定連絡協議会	25地区	■ 地域景観づくりと併用する17地区を除く ■ 上京区井田町が加盟予定 ■ 他に建築協定締結地区で非加入10地区
地域サポート活動	13地区	■ 上記2区分に含まれない地域 鴨川運河沿川、待賢学区、柘野学区、 藤城学区、上賀茂学区、七條大橋界限、 高野団地、上鳥羽中唐戸町、松ヶ崎学区 ■ 他に相談を受けている地区 祇園東、壬生綾西町、養正、他
合計	52地区+α	

私の地域との関わりは、京都市内で

- 関わり深め 10地区
ビジョン・ルール作成、協議会設立等の支援
- 関わり中くらい 24地区
継続的な相談、一時期活動支援をしていた等
- 関わり浅め 87地区
地域調査や町家調査の対象、相談対応
- 合計 121地区

- ※学区に落としこむと 100学区

景観まちづくりは、何をやっているのか

景観は、地域住民等の生活文化の現われである。
と言われます。

つまり

地域の景観を守り育てる ことは

≡ 地域の生活文化を守り育てる ことであり

≡ その生活文化育んできた共同体を育てる

ことでもあると言えます。

私たちは、そのサポートをしています。

残り時間短いですが、この分かりにくい話が、少し分かるかも知れない、典型例とエピソードをご紹介します。

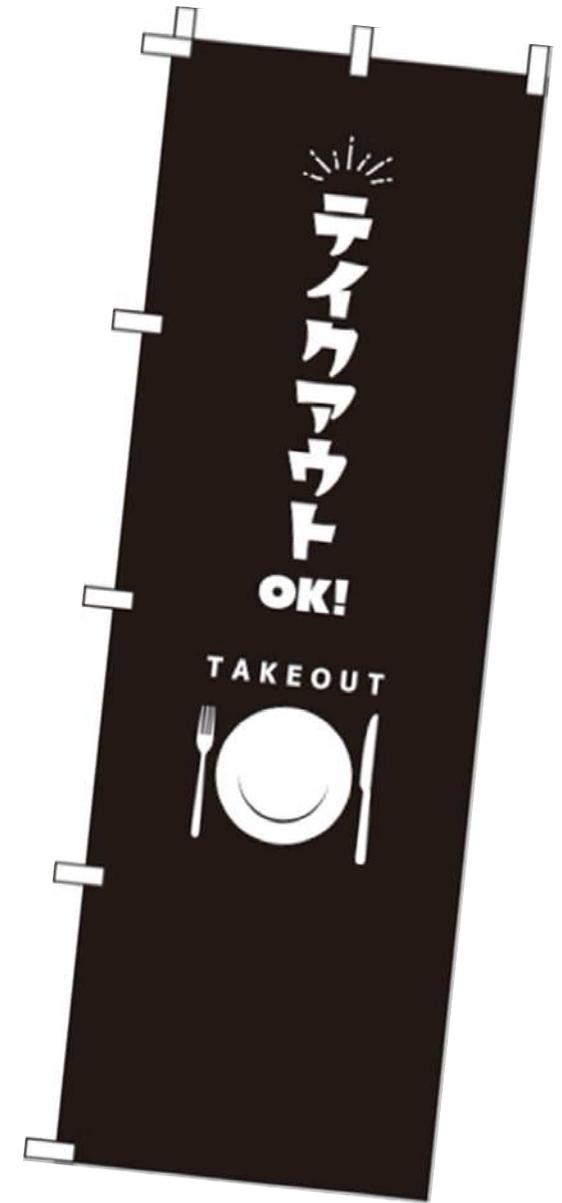
祇園新橋の景観まちづくり
～ 祇園新橋景観づくり協議会の試み ～

祇園新橋で看板や暖簾のルールを
改訂しようという話が持ち上がった際のこと。



祇園新橋では、すでに京都市が定めた
祇園新橋特別規制地域 という規制がある。

しかし、これが、地域側からするとゆるい規制
ほっといたら、いらんものが出てしまいそう。



祇園新橋特別規制地域の基準では、庇看板もOK。
しかし、祇園新橋地区には、近年出来たこの1件しかない。
のぼりも、色やデザインが基準にあえば、設置できる。



小さいもののため、京都市の許可が不要な看板。しかし、色彩自体は基準に沿わない。照明も地域になじまないものと捉えられている。

行政のルールを変更してもらおう。
地域としても、ルールを考えなおそう。
という話になってきた。

地域の景観の背景にある生活文化について

- 祇園新橋の会合で、
そもそも、看板の良しあしはどうやって判断してきたのか。基準になるような考え方はあるか。
という議論の中で出された話。

祇園で長年仕事をしている看板屋は、プランを見せたら、

「怒られるやつ」か「怒られないやつ」かを教えてくれる。それが手っ取り早いかも。

という意見が出された。

地域の景観の背景にある生活文化について

■ **誰に怒られるのか**というと、
お茶屋の女将さんとか、だと言う。

それは、**お茶屋の女将さんをシンボリックな存在**として、**地域の人達に怒られる**という意味合い。

だから**怒られないようにしよう**と思うことで、
地域が共有する規範、共同体のルールが機能している。

地域の景観の背景にある生活文化について

■ では、**良い悪いの判断基準**は何か。

それは**数値基準**ではなく、**共有する感性**。
女将さん達、地域の人達が長い時間をかけて培い、
継承していききた**美意識**や**振舞い方**に基づくもの。

→ **これが景観の背景にある生活文化の一つ**

■ **感覚的なもの**、しかも**集合知的なもの**である故に、
数値基準のような**杓子定規**にはならず、**良さそうな新しいもの**を受け入れる**余地**もある。



夏暖簾

素材は麻の天色で涼しげに



冬暖簾

素材は木綿の柿渋色で温かい印象に

地域の景観の背景にある生活文化について

- **ところが、お茶屋が減少し、住民が激減。
京都外からの資本も流入。業態も多様化。
共同体がゆるむ。**

祇園の縦社会がある故に、規範として機能しえたものが、新しく流入する人達には通じない。

- **新しく来る人達と、フラットな関係の中で、地域の景観価値を共有できるのか。それが、協議会がチャレンジしていること。 → **お手元の計画書を参照ください。****

直面する課題について

- 事例のように、地域の文化を担ってきた共同体（自治組織）をベースに、地域内外と協働する仕組みとしての協議会を主体とする方法が、地域共同体の弱まりとともに、成立しなくなってきた。
- コロナ禍で、この傾向は、加速したように感じる。
- 実は住民の支えがあって維持されてきた景観が維持できなくなったら……。京都の都市価値の減少にもつながるかも知れない。